

つくし野中だより

第10号2024、2、14

校長挨拶

柳田 拓史

全校朝礼2月5日（月）

全校生徒の皆さんおはようございます。

2月になりました。今日は5日ですが、昨日4日は立春でした。まだまだ寒い日が続いていますが、朝、夜が明ける時間が少しずつ早くなっている気がします。こうして、寒さ厳しい中にも光の春を感じ、やがて気温の春となり、最後は心の春が、皆さん一人ひとりにも訪れることと思います。

さて、今日はパキスタン、アフガニスタン両国のために、生涯を尽くした医師「中村 哲」さんのお話を少ししたいと思います。

中村 哲さんは、福岡県出身の医師ですが、ある年に、登山遠征隊の同行医師として、この地を訪れます。しかし、道行く中村さんが目にした光景は、貧しい人々の暮らしと、医療不足による多くの病人の姿でした。それをきっかけに、中村さんの現地での医療活動が始まります。

しかし、経済的な困窮、医師や医療施設の圧倒的な不足に加えて、文化・風土の違いが、中村さんの道を阻みます。が、「人々の生命を助けたい」という医師としての強い使命感が、中村さんを突き動かします。その情熱が、やがて周囲の人々にも伝わり、現地はもとより日本でも支援の輪が広がっていきました。

ところが、そんな中、アフガニスタンを大旱魃が襲い、かつ戦乱に見舞われることとなりました。人々は路頭に迷い、水不足が国民の生活を苦しめます。医師であった中村さんは、この状況を見て、白衣を脱ぎ捨て、井戸を掘り、20数キロに及ぶ用水路建設に立ち上がります。

何故なら、砂漠化する国土をそのままにして医療活動を継続しても、多くの生命を救うことは出来ないと考えたからです。

もちろん医師である中村さんに、井戸や用水路を建設する土木技術があるわけではありません。でも、ここでも「人々の生命を助けたい」と思う中村さんに賛同する、多くのアフガニスタンの人々に支えられながら、想像を絶する困難と立ち向かいながら、井戸と用水路の建設を推し進めていきます。そして苦節6年余りを経て、用水路が完成します。

アフガニスタンを流れる大河クナール川から水を引いて、用水路を水が流れたときのアフガニスタンの人々の喜ぶ姿、また中村さんに対する感謝と尊敬の眼差しを受けた、ご本人の気持ちはいかばかりだったのでしょうか。

その中村さんは、その後もアフガニスタンの発展に力を尽くしますが、2019年に作業

現場に向かう途中に、同行したスタッフ5人と共に凶弾に倒れ、命を奪われました。

ここからは、戦禍や大旱魃に見舞われたアフガニスタンに暮らした中村さんの言葉です。

◎「相手が武器を持っているからといって、こちらも武器を構えれば、喧嘩が続くだけできない。やられても、やり返してはいけない。そのことによって、少しずつ信頼されるようになっていく。」

◎「アフガニスタンの人々は、本当は戦争が好きなのではない。大人は一生懸命仕事をして、子供を育て、子供は遊ぶことが大好きで、お手伝いや勉強も熱心に頑張ろうとしてるんです。でも、水がなくて小麦が作れず、家族にご飯を食べさせられないから、軍隊から給料をもらえる兵隊になる人が多いんです。」

◎「だからこそ、農作物が育てられる環境を生み出すことが、兵隊を減らすことになり、ひいては平和をもたらすことにつながるのです。」

そして、最後に中村さんはこう語っています。

◎「平和には戦争以上の力があり、平和には戦争以上の忍耐と努力がいる。」

私は今日のお話をするにあたって、中村さんの著書を読ませていただきました。人の生き方は様々であり、今日ご紹介した中村さんの生き方、考え方が全てではないのかもしれませんが、

が、一人の男性が、一生をかけてアフガニスタンの人々に尽くす生き様から、覚悟と迫力を感じることが出来ました。

全校生徒の皆さん。皆さんの下にもやがて春が訪れます。それを信じて今日・そして明日を生き、その先に続く進級、卒業という人生の節目を大切に過ごしてください。

I組の活動

1月26日（金）こどもの国スケートリンクで行われたスケート教室。絶好の日和に恵まれました。講師の先生から靴の履き方や紐の結び方を教わり、いざリンクに向かいます。最初は恐々と手すりにつかまりながらでしたが、一周また一周と時間を重ねるごとに、目に見えて上達するのが、わかります。お昼をはさんで午後はそれぞれに自由時間。バスケットボールやお絵描きを楽しみました。

2月2日（金）は成瀬総合体育館にて、スポーツ交流会が行われました。市内特別支援学級10校が一同に会してのバスケットボール大会です。体育館に響き渡る歓声と応援の声、そして客席からは保護者の方々の声援も聞こえます。毎年のことながら、勝敗を越えた友情や思いやりが試合から感じる事が出来て、心が揺り動かされます。午後は、各校合同でのシュート大会。数を競うわけではなく、皆が一心不乱にシュートに挑むその姿を、大きな拍手で称えます。両日共に実り多い一日でした。



1年生移動教室

バス9台を連ねての移動教室が始まった。談合坂SAでバスを降りると、冷たい空気が肌を刺す。雪国への第一歩を感じる瞬間だった。バスに揺られること約4時間。雪景色の中を無事八子ヶ峰ホテルに到着する。周囲を見回すと青空、流れる雲、そして雪山が目飛び込む。スキーウェアに着替えたこともあり、高揚感が高まる。

スキー教室のスタートは開講式。ずらっと並ぶ講師陣に、一瞬緊張するが、最初の挨拶を終えたあたりからは、すっかり打ち解けての講習が始まった。慣れないスキー靴にゲレンデに最初は戸惑い、疲労を感じる表情も見られたが、そこは中学生。時間を追うごとに、雪に、スキーになじみ、笑顔や手を振るゆとりも出てきた。

ホテルに戻り、ほっと一息。食堂には美味しそうな食事が並ぶ。心地良い疲労感と、仲間との語らいに、食が進む。ライトアップされたゲレンデの美しさと、手に届きそうな満点の星空に囲まれながら、夜は更けていく。

2日目の夜。広間に集まってのレク大会。歌あり、マジックあり、ダンスに一人芝居ありと、抱腹絶倒の連続。芸達者で勇気のある1年生にただただ感心することしきり。

今回の移動教室は「～青春の3ページ目～」とスローガンには謳われていました。スキー教室の様々を眺めながら、この1年生が、これからの中学校生活で、どんなシュプールを描き、青春のページを積み重ねていくのか、楽しみでなりません。縁あって、集まった1年生282名の仲間たち。全員で空を見上げて、撮った記念写真のように、きっと希望と夢に満ち溢れた未来が、待っていることでしょう。

保護者の皆様におかれましては、準備、当日、事後と丁寧なご対応いただきましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

1年生の皆さん。お疲れ様でした。



頑張るつく中生

第 62 回東京都中学校ロードレース大会

◎男子 2, 3 年西部 2 km 競争 第 2 位 川崎 遼也 記録 6 分 42 秒

◎男子 1 年西部 2 km 競争 第 1 位 鈴木 琉斗 記録 6 分 44 秒

第 2 位 水野 和輝 記録 7 分 06 秒

第 6 位 前田 陽音 記録 7 分 18 秒

第 6 位 平賀 漣 記録 7 分 28 秒

◎第 33 回日本クラシック音楽コンクール全国大会

入 選 河口 美保 (ピアノ)

◎第 73 回社会を明るくする運動作文コンテスト

優秀賞 工藤 美結

第 57 回東京都中学校アンサンブルコンテスト

銀 賞 管楽 8 重奏 曲目「三日月のシャンソン」

竹内 菜子 古澤 未来 栢森 和花 鎌倉 彩楓

上川畑里桜 日下田創柁 吉野 陽帆 高橋 美咲

第 9 回東京都吹奏楽新人大会

金 賞 吹奏楽部 曲目「遙遠の海～アウロラを求めて～」

3 月行事予定

- 3 月 1 日 (金) 都立一次分割前期合格発表
- 4 日 (月) 一斉委員会
- 5 日 (火) 卒業を祝う会 (I 組) がん教育 (3 年生) 学習アドバイス (1, 3 年生)
- 7 日 (木) 笑顔と学びの体験活動プロジェクト (全校) 避難訓練 3 年特別時間割始
- 8 日 (金) 球技大会 (3 年生) 進路を語る会 (2, 3 年生) 短縮授業始
- 9 日 (土) 都立学力検査二次・分割後期
- 11 日 (月) 安全指導
- 12 日 (火) 心のアンケート 三送会
- 14 日 (木) 3 年特別時間割終 短縮授業終 都立二次分割後期合格発表
- 15 日 (金) 卒業式予行 午前授業始
- 18 日 (月) 卒業式準備
- 19 日 (火) 第 48 回卒業証書授与式
- 21 日 (木) 球技大会 (1 年生) 保護者会 (1, 2 年生)
- 22 日 (金) 球技大会 (2 年生) 大掃除
- 25 日 (月) 修了式 離任式
- 26 日 (火) 春季休業日始

